

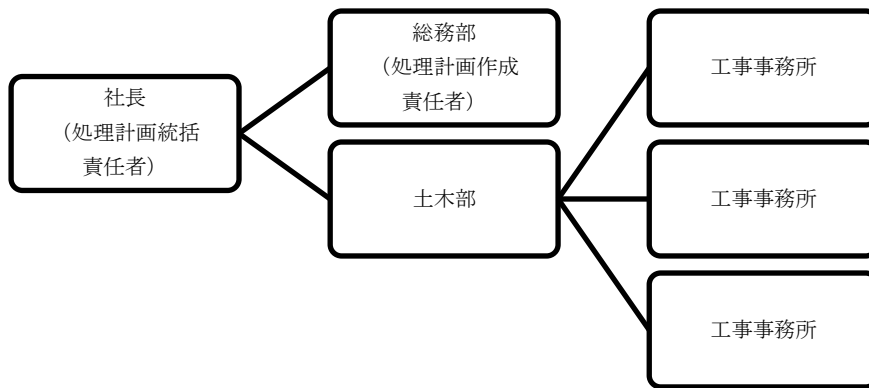
（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 7 年 4 月 24 日	
宮崎県知事 殿	
提出者	
住 所	日南市大字伊比井2175番地
氏 名	浜田建設株式会社
代表取締役 濱田 雄一郎	
電話番号	0987-29-1637
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	浜田建設株式会社
事業場の所在地	日南市大字伊比井2175番地
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	前年の元請工事高 230百万円
③ 従業員数	9人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	○ がれき類、木くず 工事現場 ⇒ 中間処理（破碎等） ○ 廃プラ、陶磁器くず、混合廃棄物 工事現場 ⇒ 中間処理（埋立等）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（R 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_		
	排出量_	別紙のとおり t	t
	(これまでに実施した取組) 工事現場で発生する廃棄物は、分別を徹底し、再生利用業者に委託して再資源化を図る。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_		
	排出量_	別紙のとおり t	t
	(今後実施する予定の取組) ・受注工事によるため発生する状況を予測するのが困難であるが、これまで同様、再生利用業者へ委託することでリサイクル率向上を目指す。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・混合廃棄物を除き、すべての建設廃棄物は工事現場で分別して排出している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現行の分別を継続する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
②計画	(これまでに実施した取組)		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ R 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_		
	全 処 理 委 託 量_	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) これまで同様、がれき類・木くずは再生利用業者へ委託する。		
	別紙のとおり		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	別紙のとおり		
	(今後実施する予定の取組) ・混合廃棄物はできるかぎり分別を実施して、再生利用業者へ委託する。		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項								
①現状	【前年度（ R 6 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック	ガラス・陶磁器	混合廃棄物	石綿含有物	廃石膏ボード
	排出量	1904.500t	111.410t	8.630t	2.570t	0.790t	1.080t	0.000t
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック	ガラス・陶磁器	混合廃棄物	石綿含有物	廃石膏ボード
	排出量	800.000t	90.000t	5.000t	1.000t	0.000t	0.000t	0.000t

2028.980t

896.000t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項								
①現状	【前年度（ R 6 年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック	ガラス・陶磁器	混合廃棄物	石綿含有物	廃石膏ボード
	全 処 理 委 託 量	1904.500t	111.410t	8.630t	2.570t	0.790t	1.080t	0.000t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量							
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	1902.870t	104.060t	0.000t	0.000t	0.000t	0.000t	0.000t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量							
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量							
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック	ガラス・陶磁器	混合廃棄物	石綿含有物	廃石膏ボード
	全 処 理 委 託 量	800.000t	90.000t	5.000t	1.000t	0.000t	0.000t	0.000t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量							
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	800.000t	90.000t					
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量							
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量							